

幌延深地層研究センターの状況

1. 地下研究施設掘削工事関係

(1) 作業状況

- ① 立坑掘削作業（8/28 現在）：維持管理
 - ・ 換気立坑（掘削深度 500.0m）
 - ・ 東立坑（掘削深度 500.0m）
 - ・ 西立坑（掘削深度 510.0m）
- ② 水平坑道掘削作業（8/28 現在）
 - ・ 140m調査坑道（掘削長 186.1m）：維持管理
 - ・ 250m調査坑道（掘削長 190.6m）：維持管理
 - ・ 350m調査坑道（掘削長 823.1m）：維持管理
 - ・ 500m調査坑道（掘削長 201.7m）：掘削

2. 調査研究関係

(1) 幌延深地層研究計画

- ① 必須の課題
 - 1. 実際の地質環境における人工バリアの適用性確認
 - ・ 人工バリア性能確認試験：継続実施
 - 2. 処分概念オプションの実証
 - ・ 坑道スケール～ピットスケールでの調査・設計・評価技術の体系化
ボーリング掘削・水理試験（250m 調査坑道）：8/21～10/31
坑道壁面からの試料採取（140m 調査坑道）：8/27～10/31
- ② 必須の課題への対応に必要なデータ取得
 - 1. 地表からのボーリング孔を用いた地下水長期モニタリング（HDB-1, 6, 7, 8, 9 孔 PB-V01 孔）：継続実施
 - 2. 地下施設における水圧・水質モニタリング（140m, 250m, 350m 調査坑道）：継続実施
 - 3. 地中変位計、高精度傾斜計を用いたモニタリング：継続実施
 - 4. 地震観測（地上、250m、350m 調査坑道）：継続実施

(2) 共同研究

- ① 幌延国際共同プロジェクト（HIP）：継続実施
- ② 人工知能を用いた画像処理により坑道壁面の地質情報を取得する方法に関する研究（北海道科学大学）：継続実施
- ③ 微生物を指標とした堆積岩中の水みち調査手法の開発（東京大学）：継続実施
- ④ コンクリーション化充填剤を利用した地下空洞掘削影響領域および水みち割れ目の自己シーリングに関する研究（名古屋大学）：継続実施
- ⑤ 地下水中の微量元素と有機物を対象とした地球化学研究（京都大学・東北大学）：継続実施
- ⑥ 地層の研究に関する研究協力協定（幌延地圏環境研究所）：継続実施
- ⑦ 地層処分における核種移行性能に関する研究（原子力規制庁と安全研究センターとの共同研究への協力）：継続実施
- ⑧ 地下微生物とニアフィールド構成材料の相互作用に関する研究（電力中央研究所）：継続実施
- ⑨ 堆積軟岩を対象とした掘削影響評価技術に関する基礎的研究（電力中央研究所）：継続実施
- ⑩ 光ファイバー式センサーを用いた坑道掘削時の掘削損傷領域と地下水流動のモニタリング（大林組）：継続実施
- ⑪ ボアホールジャッキ試験による変形係数・応力測定と掘削損傷領域の評価に関する研究

(安藤ハザマ・川崎地質)：継続実施

(3) 受託研究

- ① 地層処分施設施工・操業技術確証試験 (資源エネルギー庁)：継続実施
- ② ニアフィールド長期環境変遷評価技術開発 (資源エネルギー庁)：継続実施
- ③ 核種移行総合評価技術開発 (資源エネルギー庁)：継続実施

3. その他

- ・ 8月26日(火)の大雨による幌延深地層研究センター施設設備の被害や損傷および周辺環境への影響は確認されていません
- ・ 幌延深地層研究センターに接する「道道121号線」の一部は引き続き通行止めになっています

【今後の予定 (8/30～9/5)】

1. 地下研究施設掘削工事関係

(1) 作業状況

- ① 立坑掘削作業：維持管理
 - ・ 換気立坑 (掘削深度 500.0m)
 - ・ 東立坑 (掘削深度 500.0m)
 - ・ 西立坑 (掘削深度 510.0m)
- ② 水平坑道掘削作業
 - ・ 140m調査坑道 (掘削長 186.1m)：維持管理
 - ・ 250m調査坑道 (掘削長 190.6m)：維持管理
 - ・ 350m調査坑道 (掘削長 823.1m)：維持管理
 - ・ 500m調査坑道 (掘削長 201.7m)：掘削

2. 調査研究関係

(今後新たに発生する現地調査・現場作業のみ記載、モニタリング関係を除く)

- ・ 坑道スケール～ピットスケールでの調査・設計・評価技術の体系化：ボーリング孔掘削・検層 (350m調査坑道)：9/1～9/12
- ・ 地下微生物とニアフィールド構成材料の相互作用に関する研究 (電力中央研究所との共同研究)：試験システムの設置：9/2～9/4

3. その他

- ・ 特になし

以 上